

第 26 回
長野県母子衛生学会
総会・学術講演会プログラム

日時・会場：令和5年10月21日（土）

（最終頁に案内図があります）

10：00～11：30 助産師支援研修会（受付開始 9:30～）
信州大学医学部地域保健推進センター 3階

12：30～17：00 総会・学術講演会（受付開始 12:00～）
信州大学医学部地域保健推進センター 3階

17：10～17：45 意見交換会
信州大学医学部保健学科北校舎 1階

オンデマンド配信：令和5年11月1日（水）～11月19日（日）

参加形態	学術講演会 参加費	助産師支援研修会 参加費
1. 会員 個人参加	2,000 円	1,000 円
2. 非会員 個人参加	4,000 円	2,000 円
3. 施設参加	20,000 円	20,000 円

*申し込みは事前登録、参加費は振込をお願いしております。

主催：長野県母子衛生学会

共催：信州大学医学部地域保健推進センター

【お問い合わせ先】長野県母子衛生学会事務局
松本市旭 3-1-1 信州大学医学部保健学科内
e-mail : nagano-boshi@shinshu-u.ac.jp

学 会 プ ロ グ ラ ム

信州大学医学部地域保健推進センター 3階

10:00～11:30 助産師支援研修会

12:30～12:50 総会

12:50～13:00 学術情報提供

13:05～15:45 一般口演

16:00～17:00 特別講演

信州大学医学部保健学科北校舎 1階

17:10～17:45 意見交換会

註1：本学会は以下の交付対象です。

- ・ 『日本産科婦人科学会』 専門医研修出席証明 5点
- ・ 『日本専門医機構』 学術集会参加 1単位
- ・ 『日本専門医機構』 産婦人科領域講習 1単位 (注；現地参加でのみ発行されます)
- ・ 『日本周産期・新生児医学会』 周産期専門医研修会 2単位
- ・ 『日本産婦人科医会』 研修参加証
- ・ 『日本助産評価機構』 アドバンス助産師 選択研修修了証 (特別講演)
- ・ 『日本助産評価機構』 アドバンス助産師 必須研修「母体の感染」修了証 要課題提出
- ・ 『日本助産評価機構』 アドバンス助産師 学会参加証

註2：お車でお出かけの方は、信大病院駐車場をご利用ください。(有料)

助産師支援研修会

* 『日本助産評価機構』アドバンス助産師 必須研修「母体の感染」要課題提出

10:00～11:30

「母体の感染」

信州大学医学部産科婦人科学教室 講師 菊地 範彦 先生

研修会アンケートはこちらからお願いします⇒



学術情報提供

12:50～13:00

1. 産科領域：産科 DIC 診断基準

信州大学医学部産科婦人科学教室

菊地 範彦 先生

2. 小児科領域：シリアスゲーム「はじめての感染対策」

信州大学医学部小児医学教室

三代澤 幸秀 先生

一 般 口 演

I 群

座長 湯本 敦子 (佐久大学)

小椋 悦子 (伊那中央病院)

13 : 05 ~ 13 : 55

1. COVID-19 流行下における妊産褥婦のメンタルヘルスに関する文献検討

伊那中央病院 4 西病棟

○望月真由香、武井美佐緒

COVID-19 による妊産褥婦への精神的影響について文献検討を行った。単に COVID-19 流行下のみでは明らかに負の影響を及ぼすと言いきれないが精神的不調の要因の一つになり得ること、影響の要因として (1) 人とのつながりの困難さ (2) 流行度合の高さがあげられることが明らかとなった。

2. A 病院 NICU で働く看護師の新生児看護や環境に対する不安の実態調査

長野県立こども病院新生児病棟¹⁾ 長野県立こども病院療育支援部²⁾

○清野綾香¹⁾、市川恭子²⁾、深尾有紀¹⁾

本研究の目的は A 病院 NICU で働く看護師の新生児看護に対する不安や環境が与える影響を質問紙調査により明らかにすることである。不安の要素としてアラームや児の急変、知識・技術不足があり、これらの不安の回避のために若手看護師への教育支援が必要である。

3. YS (よりそい・ささえる) 外来における助産師の取り組み

信州大学医学部附属病院南 4 階病棟

○福井雅恵、宮下春菜、由井千鶴、曾根原由紀、藤井恵美子、太田まさえ

出生前診断において日本医師会の指針改訂により、2022 年 7 月長野県では当院が NIPT 基幹施設として認定され、NIPT の希望の確認含め、不安のある妊婦さんのための専門外来 (よりそい・ささえる：通称 YS 外来) が 2022 年 8 月に開設された。そこで、YS 外来での助産師の役割と今後の課題について検討したので報告する。

4. 自治体による里帰り出産の妊産婦への支援の実態

長野県看護大学発達看護学講座母性・助産看護学分野¹⁾、秦野市役所²⁾

○古川亮子¹⁾、井上尚子²⁾

自治体の里帰り出産の妊産婦への支援の現状把握と課題の検討のため 2019 年に質問紙調査を実施し、425 自治体の回答から、自治体は里帰り出産の妊産婦に継続的な母子保健サービスを提供していたが、自治体間の連携について検討が必要であると示唆された。

5. 産後 2 か月健診の導入

菜の花マタニティクリニック

○岸秋子、小池美帆、有賀志保、赤羽洋子

産褥 1 か月健診後から 3~4 か月の乳幼児健診までの母子に対して切れ目のない産後ケアの実践を目的とし、2022 年 6 月より初産婦を中心とした産後 2 ヶ月健診を開始した。参加した母親の反応や育児への思いから、2 か月健診の在り方を検討したので報告する。

Ⅱ群

座長 芳賀亜紀子（信州大学）

北澤 理恵（長野県立こども病院）

14：00～14：50

6. 医療的ケア児を持つ家族への支援 ～M-terrace での活動報告～

信州大学医学部附属病院南 5 階病棟

○大木梨真、上條幸葉、市村美香、太田まさえ

当院への入院者の約 2 割の児が退院後も医療的ケアが必要である。医療的ケア児対象のサービスは認知度が低く家族から情報提供を求められることが多い。今回当院 NICU 三澤医師が立ち上げた M-terrace の活動に参加し現状と課題を見出したため報告する。

7. 佐久大学版「子育てサロン」の開催報告

～生後 4 か月程度の母子のアセスメント力・支援力の修得に向けて～

佐久大学助産学専攻科

○柴田香菜子、竹内良美、中田覚子、湯本敦子

保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴い、本学助産学専攻科では、生後 4 か月程度の母子のアセスメント力・支援力の修得に向け、佐久大学版「子育てサロン」を開催した。今回、佐久大学版「子育てサロン」の概要、課題を報告する。

8. コロナ禍で NICU に入院した父親の思いと退院後の育児参加

～父親が児の NICU 入院時に求めるもの～

諏訪赤十字病院 NICU

○雨宮香純、小平遥

コロナ禍で NICU に入院した父親を対象に、面会制限中の思い、退院後の育児参加状況を明らかにした。結果、面会制限により育児手技習得には時間を要したが、育児ケアを行い実感が湧いていた。スタッフの妻や児のケアを望んでおり安心できていた。

9. A 病院における早期産児の母乳栄養状況の調査

信州大学医学部附属病院南 4 階病棟

○川村奈緒、由井千鶴、中村友美、上條咲矢華、太田まさえ

A 病院では早産となった母親に対して分娩後早期から母乳育児支援を行っている。本研究では A 病院で早産となった母親を対象に母乳分泌状況の実態を明らかにすることで、より効果的な母乳育児支援について検討することを目的とする。

10. A 病院の助産師が抱く双胎の授乳支援における困難感

信州大学医学部附属病院南 4 階病棟

○篠原なつよ、藤井恵美子、青木紗里、寺田栞、太田まさえ

A 病院では、双胎の母児同室中の授乳支援に困る場面が多い。本研究では、A 病院産科病棟の助産師に焦点を当て、産科病棟で母児同室を行っている双胎の授乳支援において、どのようなことに困難感を抱いているかを分析し、今後の支援につなげていく。

Ⅲ群

座長 小野 元紀 (信州大学医学部附属病院)
本間 永子 (諏訪赤十字病院)

14:55～15:45

1 1. ペッサリー自己脱着療法の現状

北信総合病院産婦人科
○増田聡美、長田亮介

骨盤臓器脱に対する腔内ペッサリー留置においては帯下の増加、腔壁のびらん、出血といった合併症のためにペッサリー療法を断念することもしばしばある。当院では安定して長期のペッサリー療法を可能とするためにペッサリーの自己脱着を積極的に行ってきた。当院でのペッサリー療法の現状を報告する。

1 2. 呼吸器装着児・酸素投与児における鼻周囲の MDRPU 発生予防ケアの効果

信州大学医学部附属病院南 5 階病棟¹⁾
信州大学医学部附属病院看護部²⁾
信州大学医学部附属病院医療安全管理室³⁾

○小松由佳¹⁾、市村美香¹⁾、八木真優子¹⁾、太田まさえ¹⁾、上條実名子²⁾、牧田ゆかり³⁾

新生児は皮膚が脆弱のため MDRPU を起こしやすい。入院中の早産児は呼吸器を装着する確率が高く予防が必要である。本研究では当該病棟で 2021 年から MDRPU 予防として行ってきた取り組みについてその前後の新規発生率・皮膚症状の程度などで比較検討し効果の有無を評価する。

1 3. 産科急変対応チームシミュレーション研修の成果と課題

伊那中央病院 4 西病棟

○春日華子、飯島妙、武井美佐緒、原きく江

当院産婦人科病棟において、患者急変時に医療チームとして対応できることを目的にシミュレーション研修を行った。受講者の評価は良好で臨床場面で行動変容が見られたが、課題も示唆された。それを改善しつつ今後も研修を継続することが重要である。

1 4. 周産期ハイリスク事例に対する実践能力向上を目指したシミュレーションの導入 ～カリキュラム改正に伴う佐久大学助産学専攻科の取り組み～

佐久大学助産学専攻科

○中田覚子、竹内良美、柴田香菜子、湯本敦子

本学助産学専攻科では、周産期におけるハイリスク事例に対応する実践能力を強化するために、助産学実習で遭遇する可能性の高い 2 事例（胎児機能不全への対応、胎盤娩出直後の異常出血への対応）のシミュレーションを導入したため、その実践内容を報告する。

1 5. 長野県の高校生への性教育からみるプレコンセプションケア教育の検討

長野県看護大学発達看護学講座母性・助産看護学分野
藤澤紀子

少子化やライフデザインの多様化に伴い、国や WHO はプレコンセプションケア教育を重視してきている。そこで、助産師として長野県の高校生に性教育を行ってきた経験から、長野県の高校生への性教育からみるプレコンセプションケア教育について検討した。

特 別 講 演

16 : 00～17 : 00

座長 : 中込さと子 (信州大学医学部保健学科 教授)

「これからのお産、どうする助産師」

講師 : 日本赤十字社医療センター 前看護副部長
前周産母子・小児センター副センター長
中根 直子 氏

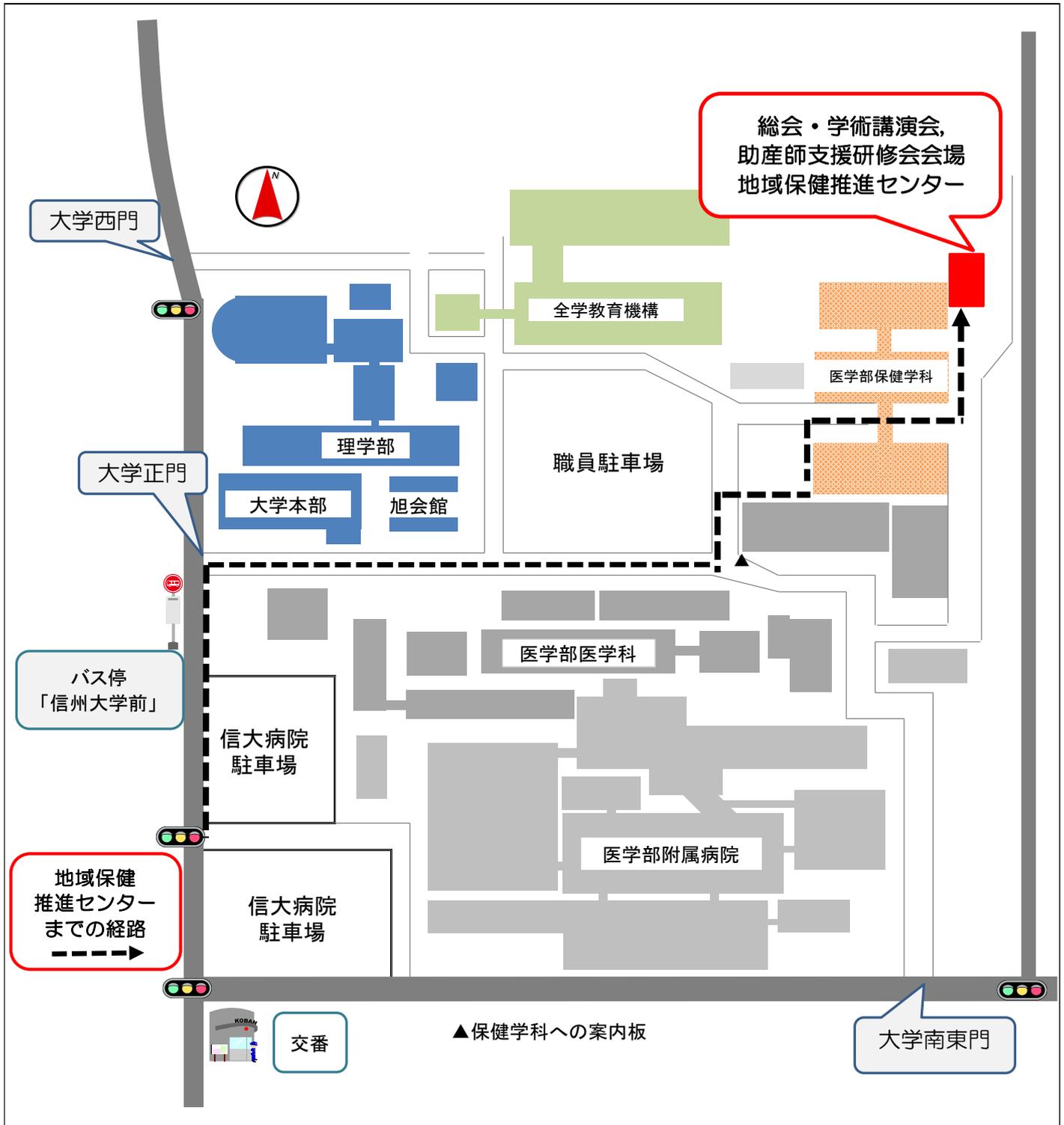
「密を避ける」ことを求められた3年で、妊産婦さんも医療者も手探りで過ごしてきました。人との関係性がベースの助産師の仕事。これからどうする？皆さまと見つめ直すことを楽しみにしています。

* 『日本助産師評価機構』アドバンス助産師選択研修

意 見 交 換 会

17 : 10～17 : 45

長野県母子衛生学会総会・学術講演会及び研修会会場へのアクセス



* お車でお越しの際には、信大病院駐車場をご利用ください。
サービス券をお渡しいたします(駐車場代200円)。